

〈背景〉

近年、優れた頭脳の獲得競争が世界的に激化してきている中で、我が国が科学技術の力で世界をリードしていくためには、優秀な人材の世界的な流動の「環」の中に位置づけられ、内外の研究人材が自然に蓄積されるような研究機関を我が国にも作っていくことが必要。

〈事業概要〉

世界の第一線の研究者が結集する、優れた研究環境と高い研究水準を誇る「目に見える拠点」の形成を目指す。

〈世界トップレベル研究拠点の拡充・強化〉**○世界トップレベル研究拠点の拡充**

我が国の国際競争力を高めるために、世界トップレベル研究拠点について、現行の5拠点に加え、低炭素社会への貢献が期待される環境分野等の地球規模課題を見据えた拠点を含め、新規に3拠点の拡充を図る。

○世界トップレベル研究拠点の強化

世界トップレベル研究拠点の機能を充実するため、各拠点が関連分野の大学院等と連携することにより、同研究拠点に学生をRAとして受け入れる。

〈取組内容〉

- 対象
 - ・基礎科学研究分野
- 期間
 - ・10～15年(19年度開始)
- 支援額
 - ・1拠点あたり平均14億円/年
- 研究拠点のイメージ
 - ・世界トップレベルの主任研究者10～20人
 - ・総勢200人
 - ・研究者のうち常に30%以上は外国人
- 国際水準の研究環境と生活環境
 - ・拠点長の強力なリーダーシップ
 - ・厳格な評価に基づく給与
 - ・言語は事務部門も含め英語

(平成19年度採択5拠点)

京都大学
物質-細胞統合システム拠点
(iCeMS: Institute for Integrated Cell-Material Sciences)
—幹細胞とメノ制御による細胞科学と物質科学の統合領域の創出—



拠点長: 中辻 憲夫

東北大学
原子分子材料科学高等研究機構
(AIMR: Advanced Institute for Materials Research)
—原子分子制御法を駆使した革新的な物質創製とデバイス・システムの構築—



拠点長: 山本 嘉則

大阪大学
免疫学フロンティア研究センター
(IFReC: Immunology Frontier Research Center)
—生態イメージング技術を用い、動的な免疫系の解明—



拠点長: 審良 静男

東京大学
数物連携宇宙研究機構
(IPMU: Institute for the Physics and Mathematics of the Universe)
—数学、物理学、天文学の連携による宇宙の起源と進化の解明—



拠点長: 村山 斉

物質・材料研究機構
国際ナノアーキテクニクス
研究拠点
(MANA: International Center for Materials Nanoarchitectonics)
—ナノアーキテクニクスに基づく持続可能な発展に資する材料の開発—



拠点長: 青野 正和

